

M. B. 英語英文学科・3 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

留学をしたいと考え始めたのは高校生の頃でした。英語を話せるようになって、様々な国に不便なく旅行したいというところから始まり、やがて就職にもとても役に立つなと思いました。長い間客室乗務員になるという夢を持っていて、その夢を叶えるためには、海外に行って現地の英語を学んで海外生活に慣れることが必要だと思い、留学をもっと真剣に考えるようになりました。視野を広げるためにもチャレンジしないといけないことに気付き、大学生の内に留学をしたいと決心しました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

IELTS の本をよく読み、たくさんライティングの練習をしました。4 skills の中でライティングが一番苦手な私は、そこで IELTS の点数を下げられたくないと思い、たくさん過去問を解いたり、IELTS を受けた経験がある友達の力を借りたりしました。スピーキングに関しては、日本にいる外国人留学生に怖がらず話しかけ、日々生の英語に触れ合う場を作りました。最初は怖いな、自信がないなと思いましたが、みんなとても優しく理解してくれたので、たくさん友達ができてスピーキング力がとても伸びました。リーディングに関してはいっぱい本や記事を読むことをお勧めします。記事など、読むのが得意ではなかった私は映画をたくさん観て、英語字幕を付け、リスニングとリーディングのスキルを身に付けました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

現地で使えるフレーズや単語をたくさん見つけて勉強しました。現地の情報も沢山集めた覚えがあります。ビザもオンラインで申し込むことができ、2 週間以内にはビザが送られてきました。

④ 現地到着後

ゲルフ大学から紹介された Red Car Service という 24 時間対応の送迎サービスを利用して、空港からホスト先まで行きました。空港からゲルフまで約 1 時間程度かかります。オリエンテーションではキャンパス内についてたくさん教えてもらい、建物の中を見せてもらいました。キャンパスは大きいのでオリエンテーションはとても役に立ち、友達も作ることができました。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

初めにレベル分けのテストがあり、レベル別にクラスが分かれます。授業は毎日行われ、少

人数クラスです。課題が大変多く、苦手な科目もたくさん練習することができます。私は夏休みの期間に ESL（語学研修）があったので、キャンパス内は私たちだけでした。レベルは 1～10 で、10 が終われば卒業することができます。

◆ 授業内容、課題、試験

授業は 4 Skills がベースとなっています。課題もたくさんあり、Week 4 では課題で毎日とても忙しくなります。試験はそのレベルが終わる時期にあります。全ての課題の点数と試験の点数の合計で次のレベルに行けるかどうか決まります。課題の出方は様々で、パソコンで提出することもあればペーパーのときもありました。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

授業は大抵大人数で行われます。履修も人気順ですぐに満員になり、こまめにサイトをチェックする必要がありました。ローカルの学生たちは 1 セメスターで 5 クラス履修していましたが、私たちインターナショナル生は 4 クラス履修していました。大学の設備は非常に良く、ご飯やスイーツがとても美味しかったです。大学内では Medical Center も存在していて色々と助かりました。

◆ 履修科目

履修期間は楽ではありませんでした。人気の授業はすぐに満員になり、なかなか思い通りに履修できなかったです。私は 4 科目履修しました。

• Introduction to Linguistics

この授業では Grammar や言語の違いについて学びました。グループ課題や個人の課題が多くあり、真剣に勉強する必要がありました。

• Reading the Contemporary World

この授業は、本や映画を使い作品についてもっと知識を深める授業でしたが、ライティングスキルがとても必要になる科目でした。本が 1 冊終わるごとに課題が出されます。初めの課題はパーセントが低いですが、セメスターの終わりになるにつれ点数の価値が高い課題がどんどん出されます。Grammar のチェックにとっても厳しく、英語力が試される授業でした。

• Introduction to Performance

劇について学ぶ授業でした。劇を観に行ったり、それについて作文を書くという形でした。毎週金曜日に学生たちは小さいグループに分かれ、実際にキャンパスのどこかでパフォーマンスをしていました。

• Life: Health and Well-being

大学に慣れてない学生たちに様々な情報を与えサポートするクラスでした。アルコール、精

神状態、食事、運動、人間関係についてたくさん新たなことを教えてくれました。課題の数は少なかったですが、量が多い課題がいくつか出されました。

◆ 授業、レポート、定期試験

授業には教授以外に 2 人 TA が付いていて、何か分からないことや問題があったら彼らに聞ける環境でした。レポートも数多くあり、1 つ 1 つ時間をかけないと良い点数が取れない状況でした。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

クラブやボランティア活動は思いもしないほど数多く存在します。セメスターの初めにクラブやボランティアは展示会をし、そこでメンバーになることができます。ボランティアセンターでは、たくさんのボランティアをキャンパス内やキャンパス外で紹介してもらえます。

⑧ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

ホームステイ先については、初めにアンケートに答え、それに沿ってふさわしいホームステイ先をゲルフ大学が決めてくれます。私のホームステイ先はカナダ人の夫婦でした。夜ご飯を作ってもらい、朝ご飯や昼ご飯は自分で用意する必要がありました。食事内容はシンプルで、豆や野菜がメインでした。家のルールとしては何も厳しいことはなく、洗濯物は夜の 7 時以降にするというぐらいでした。家から大学までバスで 10 分でしたが、不便なところはバスが 30 分ごとにしか来ないことだけでした。

⑨ 長期休暇の過ごし方

留学生はほぼみんな旅行をします。カナダ内やヨーロッパ、アメリカに行く学生がたくさんいました。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

ボストンで 1 年に一度、様々な会社が集まる会があります。日本の会社や海外の会社がみんな集まり、カナダやアメリカに留学に行く学生にとっても人気です。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

新年にトロントに行ったり、なかなか京都で降らない雪をたくさん見て満喫しました。ケベック州では、みんなフランス語を話していたこともとても思い出に残りました。カナダにしながらヨーロッパの雰囲気を楽しめました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

私は責任感が強いので、ストレスで体調を崩した際、自分一人で問題を解決しないといけな

いと思っていたときは辛かったです。また、留学先の病院の対応が非常に悪くて大変でした。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

ホストファミリーが白ご飯を全く食べないことや、カナダ人が思っていた以上に寒さに強いところが驚きでした。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

悪かった点はほとんど思いつかないです。食堂のご飯の値段が高いぐらいが不満でしたが、良いところが沢山ありました。設備もしっかりしていて、学生が充実した大学生活を送れるように色々と工夫されていました。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは大変役に立ちました。それと同じく、カナダではカイロやヒートテックが売っていないので必需品でした。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

怖がらず、何事も自分でできるようになり、精神的に強くなり、英語もスラスラと使えるようになりました。病院の予約や、携帯の修理なども全て一人で問題なくできるようになり、英語を使うことが苦ではないと感ずることができました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

怖がらずチャレンジする気持ちで留学してほしいです。自分に自信をつけたら、そこから留学の最も楽しい期間が始まります。周りに助けを求めたり、間違えたりするのは当たり前で、そこから成長できると思います。

Ⅳ. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

カナダに戻って大学院に行くことが目標です。長い間、大学を卒業したら客室乗務員になりたいなと思っていましたが、留学に行き考えが変わり、今では知識をもっと深め勉強を続けたいと思っています。

V. 写真



この写真は、ホストファミリーとハロウィン用のパンプキンを取りに行ったときの写真です。色々な形のパンプキンが存在し、驚きました。

パンプキン畑の隣にはリンゴ畑もあり、リンゴも集めることができ、とても素敵な1日となりました。



初めてカヤックに乗ったときの写真です。暑い夏にはカヤックが一番気持ち良く、涼しく感じられました。最初は少し怖がっていましたが、慣れたらスイスイと進むことができました。



ESL を卒業した日の写真です。みんな夏からの正規授業を楽しみにして、楽しくパーティーしました。ESL の先生たちと別れるのは悲しかったですが、新しい大学生活が始まるワクワクでいっぱいでした。

Y. T. 英語英文学科・3 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

小さい頃から洋楽や洋画が大好きで英語を習得したいと思っていたことや、友達が高校の頃に留学へ行っているのを見て、より留学に行きたいという気持ちが強くなりました。私の学部は留学が必須ではない学部であったこと、さらに 4 年で大学を卒業したいと考えていた私にとって休学して留学へ行くという選択肢は無かったため、協定留学一筋で 1 回生のときから国際課の方々に話を聞いたり、資料を持ち帰って熟読したりと頑張りました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

私は 2 回生のときから AES という全て英語で実施されるクラスに挑戦し、たくさん出される課題を必死でこなしました。また、通学時間にポッドキャストを聞いたり、協定留学が決定している友達に IELTS の勉強方法を聞いたりしました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

留学決定から出発するまで一瞬でした。私は一番 VISA 申請に苦戦しました。ウェブ上にかなり詳しくカナダの VISA 申請について記載されているため、それを参考に自分で行ったのですが、VISA 申請に必要な書類収集に時間がかかり、承認にも時間がかかったため、留学決定後には VISA についてウェブで調べるなどの下準備をしておくことが大切だと思います。全ての書類を集め、荷造りをし、などとしているうちにあっという間に留学出発という感じでした。

④ 現地到着後

現地の空港からホームステイ先までは Red Car Service を利用しました。他大学の留学生と到着日程が被れば大学側のスタッフが一緒に送迎して下さると思うのですが、私は本当に一人であったため、事前に予約登録をしていた Red Car Service にお世話になりました。Red Car Service は乗合形式であったため、知らない人も乗ってきますが、無事にホームステイ先まで送り届けてくださいました。到着 2～3 日後にはオリエンテーションやレベル分けのテスト等の行事が盛り沢山でした。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

クラスによって授業レベルが異なっており、時間割・担当教師も完全に違いました。基本的に ELP の学生は、ほぼアジア人と言っても過言ではないくらいアジア人が多かった印象があります。1 クラス 10～15 人程度の学生が在籍しており、私のクラスは半数以上が中国人

で、他にサウジアラビア人、イラン人、ベトナム人、そして私以外の日本人が 2 名いました。しかし、他のクラスにはパナマ人や韓国人がいました。

◆ 授業内容、課題、試験

授業は学生同士の意見交換やディスカッションが多かったです。レベルが上がるにつれて課題が多くなったり、内容もいきなり難しくなったりと大変でしたが、友達と協力してこなしました。大変なことも多かったですが、その分楽しい行事があり、毎日充実した留学生活を送っていました。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

ゲルフ大学は大きいですが、他の大学と比較すると小規模な大学であるため、建物の名前や場所を覚えるのに時間はかかりませんでした。図書館は階ごとで使用目的が決まっており、たくさんの自習室があるだけでなく、グループワークができる部屋など、とても勉強しやすい環境が整っています。また、大学内にジムがあるため、勉強の息抜きにも最適でした。

◆ 履修科目

オンライン上で履修するのですが、取りたい授業が定員オーバーであったり、専攻の学生しかとれないこともあるので、留学前に受講したい授業をたくさんリストアップすることをお勧めします。また、定員オーバーでもまれに受講できることもあるため、常に確認するといいです。

• Introduction to Performance

グループディスカッションが主で、パワーポイントを使用した授業形式でした。実際に大学を出てパフォーマンスを鑑賞する遠足が 3 回ほどあり、その後自分の発見したことなどをエッセイ形式で提出しました。期末試験もエッセイでした。

• Introduction to Nutrition

約 600 人が受講する大人数の授業でした。パワーポイントの大切な用語が穴埋めになっているため、自分で埋めていく形式でした。専門用語が多く、進むスピードがとても速かったため、授業に付いて行くことが大変でしたがとてもやりがいのある講義でした。

• History of Jazz

講義名の通り、ジャズの歴史を年代ごとに習う授業でした。パワーポイントはなく、YouTube やオンラインテキストを使用し、大切な用語などは自分でメモを取る形式でした。期末試験の他に 2 週間に一度、音楽だけを聞き、年代やタイトル名など様々な質問に答えるクイズがありました。

• Introduction to Linguistics

第二言語や音声学など、言語学について学ぶ授業でした。毎週オンライン上でクイズがあるのですが、テキストを見ながら各自でテストを受けることができるため、とても助かりました。この講義は人気があったため、履修の空きを待つ友達が多かったです。

◆ 授業、レポート、定期試験

私が履修した 4 コースの中で中間テストがあったものは Introduction to Nutrition だけでしたが、中間テストが 2 回もあったり、毎回出される課題があったりと、毎日忙しい日々を送っていました。また、教科書の価格が日本と違いとても高額なため、大学内に中古本を売買する場所がありました。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

ELP のときは定期的に開催されるイベントに参加しました。正規科目履修期間が始まってからは、友達に誘われバドミントンクラブに顔を出したり、友達と卓球、サッカー、バレーボールをしました。また、正規科目履修期間が終わってからは、大学からバスで 30 分程の場所にある Public School で幼稚園生の相手をしたり、先生のお手伝いをしたりするボランティアをしました。

⑧ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

私はカナダ到着後から帰国までずっと同じホームステイ先でした。ホームステイ先から大学までは乗り換えもなく、バスで約 10～15 分でした。また、バスも 10 分に 1 本であったため、とても便利でした。私のホストファミリーがフィリピン系カナダ人だったので、主食が白ご飯でした。食事も全て私の口に合い、食事に困ることは一切ありませんでした。また、トイレやバスルームなど、全て私専用でとても快適に過ごすことができました。

⑨ 長期休暇の過ごし方

長期休暇中は様々な場所へ旅行しました。旅行の計画を立て、旅行券やホテルの予約など全てを自分で行いました。初めてのことでしたが、とても良い経験となりました。語学研修期間の 1 回目の休暇では、母と姉が私を訪れ、一緒にナイアガラの滝を見に行きました。ヘリコプターに乗り空中からナイアガラの滝を観察したり、カナダとアメリカの国境を歩いて渡ったりしました。また、アイスワンで有名なナイアガラ・オン・ザ・レイクでワイナリー見学もしました。そして、トロントにも何泊かしました。モントリオールやケベックでは、実際にフランスの文化を体験し、カナダの公用言語が二か国語であることを肌で感じることができました。2 回目の長期休暇ではホストファミリーと一緒にコテージへ行きました。その後、友達とロサンゼルスへ行きました。人生で一度は生で見たかったアンテロープ・キャニオンやグランド・キャニオン、ホーシュー・ベンドなど、言葉では表現できないほど圧倒的な存在感でとても感動しました。3 回目の長期休暇では、バンフへ行きました。今まで

で見たこともない真っ青で美しい湖が広がっており、この湖を見た感動は一生忘れません。その後、友達とキャンプをしました。歌って、スポーツをし、たくさん食べ、夏の夜にも関わらず夜には寒さで震え、こんなにも楽しいキャンプはもう経験できないと思います。正規科目履修後には、ニューヨークへ行きました。トロントからニューヨークまで、飛行機でたったの 2 時間弱という大阪から東京へ移動するかのような圧倒的な近さには驚かされました。また、ハワイ在住の友達とフロリダで待ち合わせをし、ディズニーワールドやユニバーサル、そして NASA に行きました。留学したからこそできる経験をたくさんすることができました。本当に全て良い思い出です。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

日本にいる学生のようにインターンに行ったり、説明会に参加したりすることはできないため、主体的に行動し、周囲に好影響を与えるようなエピソード作りに励みました。そして、コミュニケーション能力だけでなく、なんでも自分から挑戦してみるチャレンジ精神や困難に直面した際に必要とされる忍耐力やストレス対応力など、企業が海外体験者に期待する能力を重視しながら生活していました。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

どの思い出も楽しい思い出でしかないのですが、私は本当にホストファミリーに恵まれていたなとつくづく思います。私には同い年のホストブラザーがいるのですが、彼が私に仲の良い友達グループを紹介してくれました。そのことで、学校以外の友達ができ、一緒に遊びに行くことができました。彼らと過ごした時間は本当に特別で私にとって宝物です。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

語学研修期間中に、私が一生懸命時間をかけて自力で仕上げた課題を中国人の友達に見せてと言われ、嫌だと言ってもしつこく言ってきたことです。他の友達はテスト中にカンニングをされていました。ですが、先生に相談して解決しました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

バスを降りる際に、乗客が“Thank you”と運転手に向かって声掛けをしていたことに驚きました。日本にはない習慣でとても素敵だなと思いました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は、留学生にとっても優しくサポートが手厚いため、困ったことがあっても安心な

ところですが、また、大学の施設も全て充実していました。反対に悪かった点は、語学学校に日本人が多いという点です。ゲルフ大学は同志社女子大学だけでなく、日本の様々な大学と提携しているため、英語を学びにカナダに来ているのにも関わらず、日本語をよく耳にしました。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

自分用のパソコンは絶対に持って行った方が良いです。語学研修期間だけでなく、正規授業期間でもたくさん使いました。課題の提出なども全てオンライン提出だったため、図書館に使えるパソコンがあっても、パソコンを持って行くことをお勧めします。また、カナダの空気（特に冬の空気）はとても乾燥しているため、ハンドクリームがとても役立ちました。私の友達はハンドクリームを持っておらず、手がとても荒れ、ひび割れができていました。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

私はリスニングとスピーキングが特に向上したと思います。留学前では聞き取れなかった CNN などのニュースや洋画を字幕なしで理解できるようになりました。スピーキングに関しては、前までは喋る言葉を頭の中で考えてから口に出したり、言葉に詰まっていたりしたのですが、だんだんと言葉が自然に頭の中に浮かぶようになりました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学は楽しいだけでなく、もちろん辛いこともあります。振り返ってみると本当に楽しい思い出で溢れています。留学に行ける環境にあるのであれば是非是非挑戦し、自信に満ち溢れた自分や一回り成長した自分の姿を思い描いて頑張ってください。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

将来は、小さい頃からの夢である外資系の客室乗務員になりたいと思っています。カナダでの留学を経験したことにより、より海外で活躍したい！英語を通じて様々な国の人々とコミュニケーションを取りたい！海外に住みたい！と強く思うようになりました。また、もう一度ゲルフに戻り、ホストファミリーや友達と再会したいです。

V. 写真



私のボランティア最終日の写真です。一人一人言葉では表せないほど可愛く、エネルギーに溢れていて、毎日 Public School に行くのが楽しみでした。



友達とキャンプをしたときの写真です。夜はとても寒かったのですが、友達と過ごす日々は留学中の思い出 **Best 5** に絶対に入るくらい本当に楽しかったです。



ホストファミリーと親戚の集合写真です。こんなにも楽しかった年越しは初めてでした。



友達とハロウィンパーティーをしたときの写真です。いつもと違った濃いメイクをしたり、友達とはしゃぎながらパーティーに向けて準備したり、日本とは違ったハロウィンを楽しめました。



バンフに友達で行ったときの写真です。今まで見たことが無いほど綺麗でした。ノンフィルターでこの綺麗さです。

K. H. 英語英文学科・3 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

私は小学生の頃から英語を習い始め、英語というものがすごく身近な存在でした。そのため、そのときから何となく留学に行けたらいいなという思いが頭の中にありました。高校は国際交流が活発な学校でしたので、在学中にオーストラリアでの 2 週間のホームステイや海外での研修旅行、そして様々な国の生徒との交流を経験しました。それらの経験を通して、もっと自分の英語力を向上させ、海外で生活することで日本にいたら経験できないようなことをたくさん経験して、自分の視野を広げたいと思うようになりました。とはいえ、最終的に協定大学留学をしようと決断するには時間がかかり、決められたのは大学 2 年生のときだったと思います。なぜなら、留学は決して簡単なことではないし、海外で学ぶということに対する不安が大きかったからです。それでもしようという決断に至ったのは、人生は一度きりなのだから後悔のないように人生の選択をしなければならないと思ったからです。行かなければ後悔するだろう、そんなことを心のどこかで思っていました。不安だろうが、大きな壁が立ちほだかっているように、海外で学んだことはかけがえのない宝物になり、向こうで経験することが自分の人生においてどれほど大切になるのだろうと考えたら、行くしかないと思いました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

前述したとおり、私は留学を最終的に決めた時期が遅かったため、正直出願までの英語学習は十分ではなかったと思います。大学の選考レベルの英語を手に入れるための勉強というよりは、日頃の授業やオンラインの英語教材(スーパー英語)などを利用して英語力を伸ばしていました。そのため IELTS を受けたのも出願ギリギリになってしまいましたが、普段の勉強とそのテストのための少しの勉強で大学が求めるレベルを取得することができました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

2 年生から AES コースに入っていました。そのコースは英文学科の学生の中でも意欲の高い人たちが集まっています。授業は Speaking、Listening、Writing そして Reading の全てがネイティブの先生によって行われているので、留学先と同じような環境で授業を受けることができます。課題は大変なことが多いですが、その分自分の英語力は確実に上がっていると思いますし、モチベーションの高い学生ばかりで刺激ももらえました。

ビザ申請手続きは色々やることが多く大変でしたが、色々なサイトで申請方法が細かく

説明されているのを参考にしながらやっていたので問題なく終わることができました。

④ 現地到着後

空港からの移動手段としては、Red Car Service という送迎サービスを利用しました。エージェントの方が予約方法の説明を詳しくして下さったので特に問題なかったです。ドライバーの方もフレンドリーで気軽に話しかけてくれました。

オリエンテーション期間はホストマザーが大学まで一緒に付いて来てくれたのでとても心強かったですし、大学の方も丁寧に色々な説明をしてくださったので助かりました。手続きとしては保険のこと、大学のサイト用のログインパスワードや ID の説明などでした。特に難しいことは何もなかったので、問題なく手続きも終わることができました。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

ゲルフ大学では語学研修専門の施設があるわけではなく、授業は大学の中で行います。語学研修中に大学の環境に慣れていたおかげで、正規授業が始まってから校内で迷うことはなかったです。私は 5 月から語学学校で学んでいたのですが、そのときには大学は夏休み中でしたので、大学に学生が全然おらず様々な場所を自由に使うことができました。

授業の環境としては、私のクラスは中国人、韓国人、日本人というアジア人で構成されていました。プレイスメントテストで 1 から 10 までのレベルに振り分けられます。クラスによって人数は様々ですが、私は最初 15 人のクラスでした。

◆ 授業内容、課題、試験

授業は Writing、Reading、Listening、Speaking、Grammar がありました。周りの人とディスカッションをしたり、ペアや個人でプレゼンをしたりしました。個人的に大変だと感じたのは Grammar の授業です。先生が厳しかったので文法が間違っていないか自分の発言 1 つ 1 つに気を遣い、一番集中力を必要とした授業だったと思います。（笑）

宿題が大変だったのも Grammar でした。ある物語を聞いて、それを理解しながらそこに出てくる場所や登場人物に関して授業で習った文法を使って文章を作ってくるというものでしたが、何度も間違いがないかを確認しながらやっていたので時間がかかりました。でも、そのおかげで苦手意識のあった文法に自信がつけました。その他に大変だったのは Speaking のプレゼンです。セメスターごとに 1 つ大きなプレゼンをしたのですが、パワーポイントを作る以外にみんなに配布するプリントも併せて作らなければならなかったもので、やることが多く大変でした。他の授業の課題もあるので計画的にやることが大切だと思います。課題は自分が想像していた量よりかは少なかったものの、それでも多いと感じました。私の場合は正規授業よりも語学学校中の方が、課題が多かったです。（笑）

試験は普段の授業をしっかりと受けて理解できていれば特に問題はないと思います。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

上にも書いた通り、語学研修中も大学で授業が行われるので特に何も変化はありません。ただし、正規授業が始まると同時に学生が一気に増えます。なので語学研修中のときほど校内を自由に使うことはできません。図書館もすごく大きいとはいえ、いつも学生でいっぱいです。

◆ 履修科目

・決定までのプロセス

大学からのメールで履修期間が送られてくるので、それに従って早めに履修を組むことをお勧めします。人気のある科目はすぐに人がいっぱいになってしまっていて取れないことがあるからです。授業開始に近づいてくると人数に変化が出ていたりするので、サイトをこまめに確認するといいいと思います。

・ Introduction to Linguistics

言語学の基礎から音声学、社会言語学について学ぶ授業です。先生はパワーポイントで授業を進めます。毎週オンライン上でクイズがあります。色々な国籍の学生が多かったという印象がありますし、先生も優しい方でした。

・ Introduction to Performance

そもそもパフォーマンスとは何かについて考える授業でした。パワーポイントを用いて進められていましたが、ディスカッションも多かったです。キッチンまで実際にお芝居を見に行ったり、博物館に行くこともありました。

・ Earth: Hazards & Global Change

地学に関する授業です。パワーポイントを使用した講義形式で進められます。毎週オンライン上でクイズがあります。3回の大きなテストと2つのアサインメントがあります。先生の話すスピードはかなり速かったですが、ユーモアのある先生でおもしろかったです。

・ History of Jazz

名前の通りジャズの歴史について学ぶ授業です。約 2 週間ごとに授業で学んだ曲のリスニングクイズがあり、ソリストや曲名、そしてその曲の特徴などを答えるというものです。パワーポイントはありませんが、動画やオンライン教材を使って授業が行われます。

◆ 授業、レポート、定期試験

教科によって授業時間が異なり、私は上 3 つの科目が 50 分×週 3、ジャズの授業が 80 分×

週 2 という感じでした。50 分授業が 1 日に全て被っていたので、その日は特に集中力を保つことが大変でした。分からないことがあれば先生にメールで聞いたり、TA さんに質問したりすることができます。科目によって課題の量は異なりますが、ほとんどの授業でレポート課題があり、テストやクイズもありました。教科書はとても高いです。私は授業終了後に売りました。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

語学学校中は様々なイベントやボランティア募集などがあるので、それに時々参加していました。正規授業のときには授業で手がいっぱいだったので何も参加していません。

⑧ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

語学研修中はホームステイという選択肢しかありませんでしたが、正規授業からは寮も選択することができました。私の最初のホストマザーは長期で旅行に行くということで、正規授業からの住まいをどうするか最初に悩みました。それぞれいいところがあるのですが、寮は自分で様々なものをそろえる必要がありお金もかかるので、最終的にはホームステイ先を変えるという選択をしました。

・最初のホームステイ先

着いたときには中国人の大学生と香港人の高校生がいましたが、一人部屋があり、トイレとバスルームは共用でした。彼女たちとはすぐにお別れでしたが、途中でフランス人の中学生が 2 人来ました。ルームメイトがいると生活環境が変わるので、たまにストレスになることもありましたが、そこまで長い期間ではなかったので特に問題はなかったです。ホストマザーはマルタの方だったので洋風の料理が多かったですが、どれもおいしかったです。朝食は自分で準備しましたが、昼食と夕食はホストが準備してくれました。ホームステイ先から大学まではすごく近い距離だったので歩いて行くこともできましたし、バスだと 15 分ほどでした。期間によって運行しているバスも異なるので、通学時間もそれによるかと思います。

・正規授業からのホームステイ先

1 回目のときと同様一人部屋があり、バスルームとトイレは共用でした。ホストファミリーはフィリピン人でしたのでフィリピン料理が多かったように思います。私は基本的にどんな料理でも食べられるのですが、アジア料理だからこそ親しみを感じましたし、巻き寿司やお好み焼きなどの料理を教えてあげて一緒に作ることもあり、とても楽しかったです。朝食は自分で用意することもあればホストが作ってくれることもありました。昼食と夕食はいつもホストが準備してくれました。1 回目のホームステイ先と比べて大学からの距離が遠くなり、バスも乗り換えて大学まで 30 分ほどかかりました。

⑨ 長期休暇の過ごし方

語学学校にいるときには、セメスター間の休みにニューヨークとモンリオールに行きました。正規授業が始まるまでの期間には両親がカナダに来てくれたので、一緒にアルゴンキン公園やトロントなどを回りました。全ての授業が終わったときにはドイツに留学している友達に会いに行ったりもしました。カナダにいるからこそ、日本にいるときよりもいろんな場所に手軽に行くことができますし、新しい場所に旅することでいろんな出会いや発見があるので旅行に行くことを強くお勧めします。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

たまに就職活動のことを調べたりしましたが、特に大きなことは何もやっていません。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

どの時間も本当に楽しかったのですが、いま思えば多くの人に出会って、人々の温かさをたくさん感じる事ができたことが本当に心に残っていることかもしれません。特に 2 つ目のホームステイ先に移ったときに、色々な人と交流する機会があったのですが、私は他の人にとって見知らぬ存在であるにも関わらず、出会った人全てが私を温かく迎え入れてくれたことが本当に嬉しかったです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

正規授業が始まったときが一番辛かったです。語学学校のとくと雰囲気が変わりすぎて、授業を受ける前は英語を話す人しかいない場所で授業を受けようとしているのだと頭の中では分かっていたのに、実際に受けるととても圧倒されました。ディスカッションの多い授業で、最初にネイティブの学生の隣に座って頑張ってみようと思ったものの、いざ話してみるとどんどん言葉が飛んできて、ただただ圧倒されていました。自分が話そうとしてもあまり聞いてくれなかったのも、自分の英語力のなさに落胆して家に帰って泣いたこともありましたし、授業に行きたくないとさえ感じたこともありました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

外国の人は時間にルーズなイメージがあったので、授業に遅れてくる先生がいたりするのかなと思っていたのですが、どの科目の先生も授業開始前から教室にいらっしゃったので逆にそれにびっくりしました。あとは LGBT の学生が大学内にいますし、トロントを歩いてもそのような人たちを見かけることもよくありました。カナダ全土で同性婚が認められていて、LGBT 先進国なのでそのような光景が普通なのだと思いますが、周りの目に気にせずにみんなが自分を出せる環境は本当に素晴らしいと思っていました。あとは小さ

なことです。ゲルフのバスでは降りる人みんなが運転手さんに“Thank you”と言って降りていたり、ベビーカーが来たらすぐに席を畳んでスペースを作ってくれたり、運転手さんに“ありがとう”と言ったら手を振ってくれたり、“Take care”と言ってくれる人もいました。何気ないことなのですがほっこりしましたし、いい文化だなと感じていました。お店の店員さんなども“How are you”とか“Have a nice day”と言ってくれたりして、いま日本に帰ってきてそのような文化がすごく恋しくなっている自分がいます。日本は respectful な文化で常に他人に気を遣い、他人と自分の境界線がしっかりしている文化だと帰ってきてからすごく思うようになりましたが、向こうではもっと気軽な関係なのでそれもいいなと思います。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

ELP のときにはいろんな国籍の人と交流できればいいなと思っていたのですが、クラスにはアジア人しかおらず、最初は 15 人中 10 人が日本人という状況だったのでそれは残念でした。授業中には英語を使うというルールがあるとはいえ、どうしても同じ国籍同士で固まってしまうので授業中に必ず英語を使うという風にはいきませんでした。私の場合、最初に受けた授業から日本語が聞こえてきたのでそれは正直びっくりでした。目指しているレベルも勉強に対するモチベーションも人それぞれなので、周りに流されないようにすることが大切だと思います。どの国の人がいるかは時期によってもレベルによっても様々だとは思いますが、しかし、ELP では様々なイベントが開かれているのでそれはよかったかなと思います。バディプログラムというものもあり、自分の趣味に合った現地学生とペアになって週に 1、2 回ほど会ったりしていました。私のペアの人は積極的に連絡を取ってくれたのですが、人によっては全く会わずに終わってしまった人もいたみたいなので相手にもよるとは思います。正規授業中も留学生向けのイベントがありましたし、ゲルフ大学は大きな大学なので、幅広い分野から自分の取りたい授業を選べるのもいいことだと思います。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンを持参しました。パソコンは必ず必要だと思います。大学にパソコンがあるとはいえ、課題をする際にはパソコンが必要ですので家に帰ってやるためには持参しなければいけないと思います。課題の提出も Course Link というツールを通してオンライン上で行ったりしますし、ELP の授業では授業中にパソコンを使ってクイズをしたりもしました。正規授業ではほとんどの学生がパソコンでノートを取っていました。

生理用品は日本製の方が質が良いので滞在日数分持っていました。あと、向こうの洗濯機は日本のものよりも荒いことがあるので洗濯ネットもあった方がいいかと思いますし、基本的に服は乾燥機で乾かすので、細かい飾りが付いているような服や大切にしている服などは持っていけない方がいいかもしれません。水のせいでタオルの色がだんだん黒っぽくなったりもしました。あとはカイロ、S 字フック、日本食などを持っていました。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学力に関しては Listening が確実に上達したと思います。話す機会は格段に増えるので Speaking 力も向上しました。行く前に比べてスラスラと言いたいことが言えるようにはなっただかなと思います。日本に帰ってきてから Writing を教えてもらっていた先生と話すとき、「上達したね」と言ってもらえたので嬉しかったです。ただ、個人的にはアカデミックな内容を話したりする際にまだ少し苦勞するかもしれないなと感じているので、日頃から継続的に英語を独り言でもいので話そうと思います。最初は難しいと感じていた授業ですが、最終的には履修した科目すべての単位を取ることができたのでそれは本当によかったと思いますし、達成感がありました。あとは、留学をして日本という国を外から見てみることで、考えることがたくさんありました。積極的で常に意見を持っている現地の学生の姿にも心を打たれましたし、本当に数えきれないほどのことを留学中に考えて学びました。留学を通して自信がついたと思いますし視野も広がったので、今後の人生に生かしていければと思います。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

最初は怖くて留学をしようという決断に踏み出せなかった私ですが、心の底から行ってよかったなと思います。不安かもしれませんが、それ以上に得られるものはとても大きいです。もし迷っている人がいたらぜひ挑戦してほしいです。もちろん楽しいことばかりではありませんが、全てが自分の人生において宝物になります。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

留学したからこそ世界に挑戦してみたいという気持ちになったので、就職は日本でしたとしても、いずれは日本を出ていろんな人と関わってお仕事をしたいなと思います。

V. 写真



ゲルフ大学のシンボルとも言える Johnston Hall の写真です。授業に行くときにとてもきれいだったので、思わず写真を撮ってしまいました。



ELP のときの写真です。最初のセメスターでちょうどテスト前最後の授業だったのでみんな写真撮りました。



ホストファミリーと近くの公園まで紅葉を見に行ったときの写真です。カナダは紅葉がとてもきれいでした！！



ゲルフ大学のキャラクターである Gryphon と写真を撮りました。



セメスター間の休みにニューヨークに行ったときの写真です。ブルックリンブリッジです。